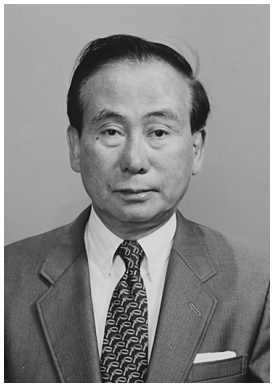
会長挨拶

国大化学会１年に，さあ２年目だ

国大化学会会長　樋口修一郎（昭和 35 年 2 部応化卒）



1.　発足１年に

昨年４月に，横浜応化会・横浜電化材化会・横国化学会の３同窓会が統合されて〈国大化学会〉となって，１年が経とうとしている．前号の会誌でも述べたように，

・新同窓会〈国大化学会〉は順調に立ち上がった

と申せる状況にあると言える．これもひとえに，役員及び会員の皆様のご尽力・ご協力のお陰であると，厚く御礼申し上げる次第である．この立ち上げ初年度には，それなりの存在感も示されて，全学的に多面的な寄与も出来たと思っている．その例示をしておこう．

・我々の同窓会三つが一つになったとは言え，まだ 10 の同窓会が存する工学部において，昨秋には化工系の３同窓会が一つに統合された．07 年３月には 12 有った工学部の同窓会が，12 月時点では８に集約されたことになる．

・11 月 10 日に成功裏に終った第２回ホームカミングデー (HCD) の準備・実施体制において，約 80 人の実行委員会の中で国大化学会からは 12 人が参画して大きく貢献した．その折にも，学生役員２人が実行委員となったこと等を通して，国大化学会の新制度が大きな関心を呼ぶ結果となった．

いよいよ，２年目の始動に入る．

2.　立ち上がり後の２年目は

順調に立ち上がった１年目を終えての２年目，新しい国大化学会が何を目指して，何を実践していくのかが問われる２年目である．立ち上げ初年度はそれなりの存在感も示されて，多面的な寄与ができたのを受けてである．

基本的には，

・発足時に策定した〈国大化学会はこれでいく〉―国大化学会２ヵ年事業基本計画―の完全実施

であり，具体的にはこれを受けて作成されている各グループの〈２ヵ年事業計画〉の実行である．

3.　２ヵ年事業基本計画を見る

２ヵ年事業基本計画が，１年目でどう達成され，２年目でどこまでが達成できるか，達成するかを，基本計画の項目別に見てみよう．

①新同窓会のスムースな立ち上げ

スムースな立ち上げ，これは見事に達成されたと評価できよう．総会・講演会・懇親会を従前の 11 月開催が HCD の開催時期と接近することから，６月開催としたことは，

・会員に新同窓会の発足を強力にアッピールできたこと

を含めて，タイムリーであった．短い準備期間の中で良く準備・設定をして頂いた懇親会グループの担当役員に敬意を表する次第である．２年目も６月開催で，定着させたい．また，３つの同窓会の良いとこ取りを更に追求していく．

②事務局機能の改革・一本化

従前は２人の事務局職員が別々に管理していた事務局業務を，１人の職員で効率的に遂行できる体制に移行できた．２年目の課題としては，

・パソコンシステムの一元化の検討

・伝統的に会員に馴染んできた応化会や電化材化会が消滅したために危惧される会費納入マインドの低下への対応

等が挙げられる．

③会員への情報提供の充実強化

これも１年目から，見事に実践されたと言える．

・会誌は冊子形式で，年度に２回の発行が実行された．

・ホームページも充実されつつある．

ということで，２年目はいずれについても中身の更なる充実を，という運びとなる．

④大学との連携強化

昨年 11 月 10 日に行われた〈第２回横浜国大 HCD〉には国大化学会が多大なる貢献をしたことは前記した通りであり，立派な連携強化となった．また，当会会員の参加登録者数は百人を超え，会員には大学との距離感が狭められたことになるという効果が大であったと申せよう．また，新同窓会として新たに設定した，

・〈大学支援基金〉については，2年目に実行に移す最大の課題の一つである．2年目の総会の場での第1号授与としたい．

⑤総会・懇親会

1年目の総会等は，前記したようにとても意義ある場であった．2年目としては，

・会員とのコミュニケーションの強化・深化に力点を置いた場となることを期待したい．

⑥会員皆で

同窓会活動は会員皆で，を〈メダマ〉を決めて実践に移したい．会員の皆様のご支援・ご協力をお願いする次第である．